

【小豆色(あずきいろ)】赤小豆の種皮のような茶色がかった赤紫色のこと。

赤小豆は餠や赤飯の材料として用いられ、日本のお祝い事には欠かせないもの。日本では縄文時代の遺跡から発掘されるなど、古くから栽培されてきた。種皮の色は赤だけでなく、白餠をつくる白小豆、原種に近い黒小豆(黒ササゲ)などいろいろある。これまで赤い色素の正体はポリフェノールの一種であるアントシアニンだとされてきたが、新種の色素であることが2019年に発見され、話題となった。

●目次 / contents

地域創造理事長 新年のご挨拶.....2

今月のニュース.....4

第23回「地域伝統芸能まつり」のご案内
令和4年度「地域創造大賞(総務大臣賞)」受賞施設決定

財団からのお知らせ.....7

令和5年度「公共ホール音楽活性化事業」(おんかつ)サブコーディネーター・アシスタント・研修スタッフ募集 / 令和5年度ステージラボ開催地のお知らせ / WEBでの情報発信のお知らせ / 令和5年度「公共ホール邦楽活性化事業」サブコーディネーター・アシスタント募集 / 令和4年度「公共ホール邦楽活性化事業」スタート / 令和5年度「リージョナルシアター事業」全体研修会報告 / 雑誌『地域創造』第48号発行 / 地域創造発行物のご案内

今月の情報.....11

地域通信 / アーツセンター情報

今月のレポート.....16

名古屋市 やっとかめ文化祭2022

～新年のご挨拶～

一般財団法人地域創造理事長 山本信一郎

明けましておめでとうございます。

知事、市区町村長の皆様、ホール・劇場・美術館等の皆様、アーティストの皆様をはじめ関係の皆様にも年頭のご挨拶を申し上げます。

最近ではwith coronaでのスタイルに慣れてきた中で、地域での文化・芸術が活発に展開されることが期待されています。中でも公共ホール、劇場等への住民の期待が大いに高まっています。この期待に応えるため、皆様のご活躍を強く願っております。私ども地域創造といたしましても、地域の要請にお応えし、最大限の努力をしております。

そのためには、それぞれのホールや劇場で、これまでやってきたことに安住しないで、思い切って新しい事業に取り組んでほしいと思います。

地域創造では音楽、ダンス、演劇、伝統芸能、美術など幅広いジャンルで、さまざまなメニューを用意しています。私どもに相談いただき、どんな事業でもいいですから、まず事業をやってみてほしいと願っています。とにかく事業に踏み出すことなくしてスタートはないと思います。

地域創造の一番のねらいは、ホールや劇場の人づくりです。ホール等の皆さんには、アーティストやコーディネーターと一緒に仕事をして学び、教えてもらいながら、アウトリーチ、ワークショップ、コンサート、美術展の実施などを体験することによって、芸術の奥深さや市民と芸術をつなげることの意義を肌で実感していただきたいと思います。ステージラボと銘打った大きな研修事業も年2回あり、これへの参加も大きな刺激になるでしょう。

公立病院に医師、看護師などの人が必要のように、公立大学に教育者をはじめ人が必要のように、公共ホールや劇場には、魅力ある事業を企画立案し、実行するための多くの人材が必要です。名称はともかく、そのような力と意欲を持った、館長・芸術監督・プロデューサー、技術者を含めた実力のある職員の存在が必須です。

まだ人の体制が弱いと自ら感じているホール・劇場等は、今年こそ、一つでも新しい事業に取り組み、ぜひ新しいスタートを切ってほしいと願います。

日本の地域社会は成熟してきており、文化・芸術に関心のある人はたくさんいます。これからの人口減少時代の日本のあり方を考えた時、文化・芸術の力が地域を豊かにするキーになることでしょう。

新しい年を迎え、お互いに有意義な仕事になるよう頑張りましょう。

2023年1月

2023年1月～3月 地域創造事業スケジュール

当財団では年度末にかけて、全国各地でさまざまな事業を展開しております。

1月

- 令和4年度地域創造大賞(総務大臣賞)表彰式(東京都・グランドアーク半蔵門)/1月20日
- 公共ホール音楽活性化事業
広島県海田町(織田幹雄スクエア)/1月19日～22日
京都府舞鶴市(舞鶴市総合文化会館)/1月20日～22日
香川県丸亀市(丸亀市綾歌総合文化会館)/1月27日～29日
- 公共ホール邦楽活性化事業
秋田県大館市(ほくしか鹿鳴ホール(大館市民文化会館))/1月19日～21日
埼玉県上里町(上里町総合文化センター(ワープ上里))/1月26日～28日
富山県黒部市(黒部市国際文化センター)/1月26日～28日
- リージョナルシアター事業
福島県白河市派遣(白河文化交流館コミネス)/1月13日～17日
山形県鶴岡市1回目派遣(荘銀タクト鶴岡(鶴岡市文化会館))/1月17日～20日
- 公共ホール現代ダンス活性化事業
熊本県天草市Bプログラム2回目派遣(天草市民センター)/1月4日～9日
愛知県西尾市Aプログラム(西尾市文化会館)/1月18日～21日
神奈川県茅ヶ崎市Bプログラム1回目派遣(茅ヶ崎市民文化会館)/1月19日～22日
広島県東広島市Aプログラム(東広島芸術文化ホールくらら)/1月25日～28日
- 公共ホール創造ネットワークモデル事業
神奈川県小田原市/1月16日、17日
神奈川県茅ヶ崎市/1月31日

2月

- 第23回地域伝統芸能まつり(東京都・NHKホール)/2月19日
- 公共ホール音楽活性化事業
千葉県木更津市(木更津市民会館)/2月2日～4日
長崎県佐保市(アルカスSASEBO)/2月2日～4日
茨城県牛久市(牛久市中央生涯学習センター)/2月24日～26日
- 公共ホール邦楽活性化事業
東京都練馬区(練馬区立大泉学園ホール)/2月2日～4日
神奈川県座間市(座間市立市民文化会館(ハーモニーホール座間))/2月21日～23日
- リージョナルシアター事業
神奈川県横浜市2回目派遣(横浜市市民文化会館 関内ホール)/2月3日～6日
山形県鶴岡市2回目派遣(荘銀タクト鶴岡(鶴岡市文化会館))/2月21日～24日
- 公共ホール現代ダンス活性化事業
大阪府堺市Cプログラム(フェニーチェ堺(堺市民芸術文化ホール))/2月9日～12日
神奈川県茅ヶ崎市Bプログラム2回目派遣(茅ヶ崎市民文化会館)/2月15日～19日
- ステージラボ川崎セッション(ミューザ川崎シンフォニーホール)/2月14日～17日
- 公共ホール創造ネットワークモデル事業
神奈川県茅ヶ崎市/2月1日

3月

- 公共美術館共同巡回展開催助成事業(2カ年プログラム)
「交歓するモダン 機能と装飾のポリフォニー」/～3月5日
 - 公共ホール音楽活性化事業
山梨県甲斐市(甲斐市双葉ふれあい文化館)/3月9日～11日
-

●「地域伝統芸能まつり」

23回目のテーマは「息吹～天地(あめつち)を動かす～」

第23回 地域伝統芸能まつり



平成30年度 第19回地域伝統芸能まつり フィナーレの様子

地域創造では、地域の重要な資源である地域伝統芸能の保存・継承・活用を支援しています。なかでも、日本各地域の伝統芸能と古典芸能が一堂に会し、個性豊かなさまざまな芸能が歴史的・地域的な解説とともに披露される「地域伝統芸能まつり」は、日本の芸能のすばらしさや地域の伝統の重みを再認識する機会として高く評価されています。

平成12年度から開催されてきたこのまつりでは、これまで、全国47都道府県から190演目が披露されました。第23回目となる今年のテーマは、「息吹～天地(あめつち)を動かす～」。

テーマに沿った、日本各地域の伝統芸能9演目と古典芸能1演目をご紹介します。

●「地域伝統芸能まつり」に関する問い合わせ
総務部 河野
Tel. 03-5573-4056

◎出演予定の地域伝統芸能・古典芸能(出演順)

行祭事名または演目	地域または出演者	都道府県単位のみた場合の出演回数
●一人角力	今治市(愛媛県)	6回目(7年ぶり)
●田子神楽	田子町(青森県)	6回目(7年ぶり)
●御諏訪太鼓	岡谷市(長野県)	4回目(12年ぶり)
●高田神社横野獅子舞	津江市(岡山県)	3回目(13年ぶり)
●座喜味棒術	読谷村(沖縄県)	8回目(6年ぶり)
●復曲能「名取ノ老女」(短縮版)	武田孝史、宝生和英 ほか	—
●今寺面浮立	嬉野市(佐賀県)	6回目(7年ぶり)
●伊賀和志神楽	三次市(広島県)	6回目(6年ぶり)
●エイサー	沖縄市(沖縄県)	8回目(6年ぶり)
●秋田竿燈まつり	秋田市(秋田県)	9回目(4年ぶり)

【日時】2023年2月19日(日)
午後2時30分開演(午後1時30分開場)
【会場】NHKホール(東京都渋谷区神南2-2-1)
【入場】無料(事前申込制)
【主催】地域伝統芸能まつり実行委員会、(一財)地域創造
【後援】総務省、文化庁、観光庁、NHK
【協力】名鉄観光サービス(株)

◎応募方法 インターネットのみ(パソコン、携帯電話等)
下記募集サイトからご応募ください。
<https://www.nhk-p.co.jp/chigeisai2023/>
応募締切:2023年1月29日(日) 午後11時59分

◎お問い合わせ ハローダイヤル
Tel. 050-5541-8600(全日9:00~20:00)

*同一メールアドレスでの重複申し込みはできません。また、同一電話番号で複数お申し込みいただいた場合、1件として取り扱います。
*ご応募いただいた方には、受付確認メールをお送りいたします。
*入力内容に不備があった場合は、無効となりますのでご注意ください。
*応募多数の場合は抽選となります。当落結果は、2月上旬に申込者全員にメールにて通知いたします。新型コロナウイルス感染症の感染状況によって、当選者数を制限する場合があります。
*当選者には、座席券を公演日の約1週間前を目途に発送いたします。なお、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、事前に座席を指定させていただきます。
*ご来場は当選された方と、申し込み時にご同伴者として登録された方に限らせていただきます。それ以外の方へのチケットの譲渡はお断りいたします。
*ご応募いただいたお客様の個人情報は、本事業の抽選、当落告知および個人を特定しない統計資料の作成の目的で使用させていただきます。また、公演後、会場にて新型コロナウイルス感染症への感染が疑われる事象が発生した際に、必要に応じて保健所、自治体等の公的機関へご来場の方の情報を開示する場合を除き、お客様の事前の承諾なく個人情報を業務委託先以外の第三者に開示・漏洩いたしません。
*新型コロナウイルス感染症の感染状況や、荒天などの影響により公演を中止する場合があります。最新の開催情報は、地域伝統芸能まつりのホームページなどでお知らせいたします。
*ご来場時、また会場内では必ずマスクを着用し、咳エチケット、手指の消毒など感染防止にご協力ください。
*会場入口でサーモグラフィカメラ等により体温を測定させていただきます。37.5℃以上の体温が測定された方は入場をお断りいたします。

▼— 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

●第23回地域伝統芸能まつり プログラム紹介 *演目は変更される場合もありますのでご了承ください。

ひとりずもう 一人角力(愛媛県今治市)



毎年春の御田植祭と、秋の抜穂祭において、大山祇神社で行われる相撲神事です。目に見えない稲の精霊と相撲を取るため一人角力といわれます。「稲の精霊」と「一カ山」による三本勝負で行われ、稲の精霊が2勝1敗で勝つことで春には豊作が約束され、秋には収穫を感謝するという意味があります。その歴史は650年以上に遡るといわれ、一時は途絶えるも、地元の奉仕者の尽力により平成11年に復活を果たしました。愛媛県指定無形民俗文化財。

たっこかくら 田子神楽(青森県田子町)



田子神楽は、400年以上前から伝わる山伏神楽の流れをくむ神楽です。江戸時代初期から南部藩御用神楽を務め、この功績から南部家の家紋である「向鶴」の使用を許されたといわれており、明治時代まで正月16日に盛岡城に登城して神楽祈禱を行っていたそうです。五拍手といわれる勢いのある囃子の音色に合わせて、舞手が見事な手さばき足さばきを演じます。現在も、田子神楽保存会が中心となり神楽の伝承と後継者の育成に力を入れています。

おまつだいき 御諏訪太鼓(長野県岡谷市)



御諏訪太鼓は諏訪大社の太々神楽、鼓舞楽として伝承されてきました。また、武田信玄が諏訪太鼓21人衆を編成し、川中島の合戦で将兵の士気の鼓舞をはかったといわれています。御諏訪太鼓の特色は、本来リズム楽器である太鼓を複式複打法によるオーケストラ形式に仕上げていることです。これは、昭和26年に御諏訪太鼓流家元七代目宗家小口大八が創案完成したものです。打楽器のみによる感情表現は、聞く人々に強い感動と深い感銘を与えています。

たかたんじやよこのししまい 高田神社横野獅子舞(岡山県津山市)



高田神社の獅子舞は、伝承によると、和銅6(713)年に美作国府が開設されて以来、毎年9月9日に美作11社の神々が総社に神幸したときからこれに加わっていたといわれています。文化・文政期から明治期にかけてはとくに盛んで、人々に悪魔払いとして信仰を受けて来ました。この獅子舞には、獅子頭と呼ばれる指揮者がいて、獅子を使う技術と人物を見込んで氏子たちが選出されます。現在では、毎年7月の納涼祭と、10月の例大祭において奉納されています。

さきみほろじゆつ 座喜味棒術(沖縄県読谷村)



座喜味棒術は、約500年の歴史を持ち、座喜味城主護佐丸公の時代に遡るといわれています。棒術は自分達の身を守るだけでなく、集団で村の防衛を果たすものでもありました。沖縄各地には様々な棒術が伝わっていますが、「座喜味棒」は実戦型であることが特徴です。座喜味棒保存会は1975年に設立され、県内はもとより、県外国外でも技を披露してきました。現在は、後継者育成を目的に子ども会へ指導者を送り、継承発展に努めています。

なとりのおうじよ 復曲能「名取ノ老女」[出演]武田孝史、宝生和英ほか



現在の宮城県名取市を舞台とする本作は、平成28年東日本大震災から5年を機に国立能楽堂で約130年ぶりに復曲されました。陸奥・名取の老女は熊野権現を信仰、毎年熊野に詣でていましたが、今は年老い、名取に社を勧請して祈りを捧げています。そこに熊野山伏が柳の葉に現れた神詠を携えてやってきます。感涙にむせぶ老女が名取を案内、法楽の舞を捧げると護法善神が現れ老女を祝福します。今回は被災地復興の「息吹」を感じさせる名所教えと護法善神の出現場面を上演します。

いまでらめんぷりやう 今寺面浮立(佐賀県嬉野市)



面浮立は、佐賀県が誇る民俗芸能のひとつ。笛・鉦・太鼓の囃子に合わせ鬼面をつけて舞います。もともとは約450年前の戦(いくさ)における戦勝祝いの舞だったといわれていますが、現在は五穀豊穡への感謝をする神事芸能として受け継がれています。嬉野市に伝わる今寺面浮立は、男衆の躍動感のある動と静を組み合わせた舞と、女衆の鉦の舞が調和した独特の演舞となっています。

いかわしかくら 伊賀和志神楽(広島県三次市)



伊賀和志神楽は、石見神楽のうち邑智33神楽の阿須那派に所属しています。江戸時代後期に当地方へ伝えられ、代々土地の有志により伝承されてきています。演目は豊富で多彩です。大きく2種類に分けられ、六調子は石見神楽の原型といえる比較的緩やかな囃子に合わせ、舞手も重心をぐっと落とした姿勢で舞います。八調子は囃子が速く、絢爛豪華な衣装で舞うものです。昭和35年には演目「鈴合わせ」が、広島県無形民俗文化財の指定を受けました。

エイサー(沖縄県沖縄市)



エイサーは、本土の盆踊りにあたる沖縄の伝統芸能のひとつ。仏典を広めるために発生した念仏踊りが、しだいに姿を変えていったものであり、地域ごとに独自の衣装・踊り・掛け声など特色を持つ伝統が受け継がれています。中でも本島中部の沖縄市では特にエイサーが盛んに踊られています。演者同士が踊りながら交差し、様々なかたちへ大胆に変化する演舞体系、ダイナミックな男女混成の踊りなど見どころ満載です。

あきたかんとう 秋田竿灯まつり(秋田県秋田市)



江戸時代中期、お盆の前に邪気や病魔を払い、身を清める「ねぶり流し」と、五穀豊穡の願いを込め、提灯を米俵に竿燈全体を稲穂に見立てて練り歩いたことが由来とされています。現在は、8月3日～6日の4日間開催されています。重さ約50kgの竿燈を手のひら、額、肩、腰などに乗せて、次々に差し手による妙技が披露されます。今日では、各種団体・企業から280本を超える竿燈が出竿されて、その風情はまるで風にそよぐ黄金の稲穂のようです。

●令和4年度「地域創造大賞(総務大臣賞)」発表

令和4年12月、地域創造大賞(総務大臣賞)の受賞施設に、以下の5施設を決定しました。

受賞施設の設置主体である地方公共団体、地域における創造的で文化的な環境づくりを目指し施設の運営に尽力されたスタッフの方々、施設を拠点に文化活動等を行う地域住民の皆様、誠にありがとうございます。地域創造では、受賞施設の活動を紹介させていただくことを通じて、全国の公立文化施設のさらなる活性化が図られることを期待しています。

◎令和4年度地域創造大賞(総務大臣賞)表彰式

[日時] 2023年1月20日(金) 14:00～14:50

[会場] グランドアーク半蔵門 華の間

安田侃彫刻美術館 アルテピアッツァ美唄 | 北海道美唄市

“自然と彫刻が調和した芸術広場”により誇りを醸成

炭鉱で栄えた美唄市出身の彫刻家・安田侃、市、住民が一体となり、「土地の記憶を繋ぐ木造校舎・自然・芸術」が調和した美術館を実現。アルテ市民制度を創設したNPOが運営し、ガイドツアーや石と向き合



い自身の心を形にする「こころを彫る授業」などを通して、芸術広場を「こころのふるさと」として後世に伝える文化のまちづくりを推進した。

[運営] 認定NPO法人アルテピアッツァびばい [開館] 1992年

府中市立府中の森芸術劇場 | 東京都府中市

“質の高い鑑賞事業”により心豊かな生活を推進

クラシック音楽、オペラ、バレエ、ポピュラー音楽、ミュージカル、伝統芸能など多様な鑑賞事業を展開。ジュニアウィンドオーケストラ、青少年吹奏楽団、少年少女合唱団の支援やジュニアジャズスクールの開講



など青少年の育成にも力を入れ、都市近郊の文化施設として心豊かな生活を推進した。

[運営] 公益財団法人府中文化振興財団

[開館] 1991年

神奈川県立青少年センター | 神奈川県

“青少年と舞台芸術の出会い”に尽力

1960年代に整備された青少年健全育成施設の草分け。悩みを抱える青少年への支援に加え、科学と舞台芸術の分野における体験学習の機会を提供。歌舞伎、文楽、人形劇、演劇、ダンスなどの鑑賞をはじめ、学校演劇・ダンス活動の支援、若手人材の発掘と育成を目的



とした「マグカルシアター」など、長年にわたり青少年と舞台芸術の出会いに尽力した。

[運営] 神奈川県
[開館] 1962年

浜松市楽器博物館 | 静岡県浜松市

“日本で唯一の公立楽器博物館”として尽力

楽器産業が盛んな浜松市が開設した日本で唯一の公立楽器博物館。世界の楽器を収集・保存し、館職員が実際に演奏・解説する講座やレクチャーコンサート、学校で実施する移動楽器博物館など幅広い事業



を展開。楽器を通じた多文化理解と音楽のまちづくりを推進した。

[運営] 公益財団法人浜松市文化振興財団

[開館] 1995年

はつかいち文化ホール(ウッドワンさくらびあ) | 広島県廿日市市

“市民と音楽をつなぐ交流拠点”として尽力

多彩な鑑賞事業を提供するとともに、市民オペラ、市民ミュージカルなどの市民参加事業、室内合奏団の運営、ジュニア弦楽合奏団の育成、教育委員会とともにやっている平和コンサートや小学校訪問コンサート



など、市民が音楽と触れ合うさまざまな機会を創出し、市民と芸術文化をつなぐ交流拠点として尽力した。

[運営] 公益財団法人廿日市市芸術文化振興事業団
[開館] 1997年

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

財団からのお知らせ

●令和5年度「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)」サブコーディネーター・アシスタント・研修スタッフ募集

おんかつは、当事業の登録アーティストと音楽事業の企画制作について経験が豊富な専門家(コーディネーター)を公共ホールへ派遣し、身近で親しみのある「有料コンサート」と地域住民との交流を図る「アクティビティ」を実施するものです。当事業において、コーディネーターの補助業務を担当していただく、サブコーディネーター、アシスタント、研修スタッフを募集します。

サブコーディネーターとアシスタントは、文化・芸術分野の公演、アウトリーチやワークショップなど、地域の文化・芸術活動に関わった経験のある方などを対象とし、将来、地域におけるアウトリーチ活動や当事業の中核となって活躍する人材の育成を目的としています。

研修スタッフは、公共ホールの職員を対象にアウトリーチ手法による事業展開の企画制作等について実践的な研修(OJT)を実施するこ

とで、地域の文化・芸術を担う人材の育成に加え、地域間の相互交流の促進も担っています。

募集要項および応募用紙は当財団ホームページに掲載しています。詳細は担当までお問い合わせください。

募集締切：2023年1月13日(金) 必着

●令和5年度ステージラボ開催地のお知らせ

ステージラボは、公立文化施設等の職員を対象にした少人数形式の実践的な研修事業で、毎年、前・後期の2回(原則)開催しています。

令和5年度は、前期(2023年7月上旬)に札幌市民交流プラザ(北海道札幌市)で3コースを実施、後期(2024年2月上旬)に岡山芸術創造劇場ハレノワ(岡山県岡山市)で2コースを実施予定です。詳細は地域創造レターおよびホームページでお伝えします。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

●WEBでの情報発信のお知らせ

地域創造ではコロナ禍の状況も踏まえ、WEBでの情報発信にも力を入れています。財団ホームページでは、当財団のこれまでの事業実績や登録アーティスト情報をデータベースとして検索できるほか、地域創造レターのバックナンバーや各種報告書もご覧いただけます。また「おんかつ支援」のページでは、登録アーティストから提供いただいた所属事務所や個人のホームページ、SNS、動画などのURLをまとめたリンク集を掲載するなど、事業の参考となるような情報も随時更新しています。

「地域文化資産ポータルサイト」では、全国各地の伝統芸能等の映像を掲載。月ごとのテーマに合わせた映像の紹介も行っています。そのほか、「地域創造公式YouTubeチャンネル」やFacebookでも随時情報発信をしております。地域創造レターと併せて、ぜひご活用ください。

◎財団ホームページ

<https://www.jafra.or.jp/>

◎おんかつ支援登録アーティストリンク集

<https://www.jafra.or.jp/project/music/03.html>

◎地域文化資産ポータルサイト

<https://bunkashisan.ne.jp>

◎地域創造公式YouTubeチャンネル

https://www.youtube.com/channel/UCQzyG0gkEMVvdjkLVPh4r_A

◎Facebook

<https://www.facebook.com/RegionalArtActivities/>



財団ホームページ

●おんかつサブコーディネーター・アシスタント・研修スタッフの募集要項は下記よりご覧いただけます。

<https://www.jafra.or.jp/project/music/01.html>



●公共ホール音楽活性化事業に関する問い合わせ

芸術環境部 永田
Tel. 03-5573-4064

●ステージラボに関する問い合わせ

芸術環境部 藤原・三田・梅村・矢嶋
Tel. 03-5573-4183

財団からのお知らせ

●公共ホール邦楽活性化事業サブコーディネーター等募集要項は下記よりご覧いただけます。

<https://www.jafra.or.jp/project/music/04.html>



●令和4年度「公共ホール邦楽活性化事業」

◎実施団体(主会場/派遣アーティスト/日程)

●一般財団法人大館市文教振興事業団(ほくしか鹿鳴ホール 大館市市民文化会館/藤重奈那子(箏・地歌三絃・十七絃)/1月19日～1月21日)

●鉾田市(鉾田市立大洋公民館/藤重奈那子(箏・地歌三絃・十七絃)/12月8日～10日)

●一般財団法人上里町文化振興協会(上里町総合文化センター ワープ上里/藤高りえ子(筑前琵琶)、養田弘大(三味線)、石田真奈美(箏)/1月26日～28日)
※令和3年度からの延期

●公益財団法人練馬区文化振興協会(練馬区立大泉学園ホール/棚原 健太(歌三線)/2月2日～4日)

●公益財団法人座間市スポーツ・文化振興財団(座間市立市民文化会館 ハーモニーホール座間/川田健太(箏・三絃)/2月21日～23日)

●特定非営利活動法人魚沼交流ネットワーク(小出郷文化会館/川田健太(箏・三絃)/11月24日～26日)

●公益財団法人黒部市国際文化センター(黒部市国際文化センター/棚原健太(歌三線)/1月26日～28日)

●上富田町(上富田町文化会館/本間貴士(箏)、多田彩子(箏・琵琶)、澄川武史(横笛)/11月10日～12日)

※令和3年度からの延期

●公共ホール邦楽活性化事業に関する問い合わせ

芸術環境部 森永・前田

Tel. 03-5573-4069

●令和5年度「公共ホール邦楽活性化事業」サブコーディネーター・アシスタント募集

この事業は、当事業の登録演奏家と邦楽事業の企画制作について経験が豊富な専門家(コーディネーター)を公共ホールへ派遣し、身近で親しみのある「ホールプログラム」と地域住民との交流を図る「アクティビティ」を実施するものです。

コーディネーターの補助業務を担当すると

ともに、将来、地域におけるアウトリーチ活動や当事業の中核となって活躍することが期待される人材の育成を目的として、サブコーディネーター・アシスタントを募集します。詳細は担当までお問い合わせください。

【主な業務内容】コーディネーターを補助し、担当地域における事業の企画立案から公演終了報告までの連絡調整、記録などの業務を担当します(1～2回の地域への現地派遣あり)。

募集締切:2023年1月27日(金)必着

●令和4年度「公共ホール邦楽活性化事業」がスタート

令和4年度は全国8団体が参加し、5組の演奏家が和の音色を届けます。今号では、その中から和歌山県上富田町(11月10日～12日)と、新潟県魚沼市(11月24日～26日)の様態をご紹介します。

上富田町は和歌山県の南西部に位置し、温暖な気候と清流に恵まれた場所。熊野信仰が盛んだった頃は、熊野古道の入り口「口熊野」として栄えてきました。今回のアクティビティは、「地域の地域資源を掘り起こし、邦楽の力を合わせて双方の魅力を発信する」というテーマを掲げ、平成28年に世界遺産に登録された「八上王子跡」「稲葉根王子跡」を含む計4カ所で実施しました。

演奏は、本間貴士さん(箏)、多田彩子さん(箏・琵琶)、澄川武史さん(横笛)の3名。各地区の老人クラブ等に宣伝を行い、神秘的な空間で古の熊野に思いを馳せながら演奏をお届けしました。いつもの見慣れた場所に和の音色が加わり、その素晴らしさを再発見するとともに、日常とは異なる景色、非日常を体験できる機会となりました。

魚沼市は、新潟県の南東部に位置し、越後三山、信濃川の支流魚野川・破間川など多くの清流と豊かな自然に恵まれた場所。市内小中学校の中には、民謡民舞・三味線・太鼓などを、地域文化団体の指導の下、総合学習の時間に取り入れるなど、地域芸能を子どもたちに伝承することを大切にしています。今回のアクティビティは、「子どもたちの感性を磨く」をテーマに、魚沼市内3カ所の小中学校で実施しました。

演奏は、川田健太さん(登録演奏家/箏・三味線)、谷富愛美さん(箏・十七絃)、風間禅寿さん(尺八)の3名。古典楽曲の魅力に加えて、現代曲を演奏することで、音楽の多様性や興味の幅を広めるプログラムとなりました。新潟県にちなんだ『越後獅子』では、昔の人の喜びを表現した曲という

解説があり、子どもたちは当時の様子を思い浮かべながら演奏を味わいました。最終日のホール公演では、1部・古典曲、2部・現代曲とガラッと雰囲気を変えた演出で、大きな拍手の中で幕を閉じました。



上:稲葉根王子(和歌山県上富田町)でのアクティビティの様子
中:魚沼市立入広瀬小学校でのアクティビティの様子
下:魚沼市小出郷文化会館でのホールコンサートの様子

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

●令和5年度「リージョナルシアター事業」全体研修会報告

令和5年度「リージョナルシアター事業」の実施予定団体担当者と派遣アーティストが集まり、事業についてのオリエンテーションやディスカッション、企画打ち合わせを行う全体研修会を2022年11月14日、15日の2日間にわたって開催しました。

この事業では、地域の課題やホールの展望などを踏まえながら、住民等を対象にした公募ワークショップや学校へのアウトリーチ等、地域独自のさまざまなプログラムを、派遣アーティストと実施団体が協働して企画することができます。今回の研修会には、令和5年度に事業実施予定の5団体から9名の事業担当者が参加し、地域やホールがやりたいこと、課題、演劇的手法を使ったワークショップの効果や可能性などを、担当者と派遣アーティストとの対話を通して共有することを目指しました。

研修会の初日は派遣アーティストと担当者の顔合わせを行った後、まずはリージョナルシアター事業で行うワークショップについての理解を深めるために、当事業のアドバイザーである岩崎正裕さんのワークショップを体験しました。2人1組で相手のことを紹介する「他己紹介」を“漫才風”にして発表したり、ホワイトボードに絵を描き、その絵を見ていない人に言葉のみでイメージを伝え、絵を再現してもらうワークなどから、参加者同士のコミュニケーションや、相手に伝えることの重要性を体感してもらいました。

その後「事例紹介」として、派遣アーティストとアドバイザーから、ワークショップ事例やこれまでの成果や苦勞、事業担当者の役割や心構えについてお話いただきました。学校へアウトリーチに行く際は、「まず担当者が、プログラムの内容や何を大切にしているかについて、アーティストに代わって学校の先生たちに伝えられるかが成功の鍵」であること、「地元のアーティストにも参加してもらいたいという場合には、なぜその方に参加してほしいのか、今後どのような協力体制を築いていきたいと考えているのかを、ホールとして明確に示せることが重要」など、派遣アーティストの経験に基づいた話に担当者は熱心に耳を傾けていました。質疑応答では「どのように広報をすると効果的か」という具体的な話から、「演劇のワークショップとは何か」「そもそも演劇のもつ要素・力とは何か」という話まで幅広いトークが展開されました。

2日目は、前日のオリエンテーションを踏まえ

て、実施団体ごとに派遣アーティストと担当者が企画打ち合わせを行いました。それぞれのホールのミッションや地域課題を基に、その地域ならではのプログラム実現に向けて熱心な話し合いが行われました。派遣アーティストと個々に各地域の状況や目的を話し合うことで、プログラムの内容だけでなく、新たな課題や、今後検討していくべきことが徐々に形になっていきました。最後に、企画打ち合わせの経過報告を行い、各実施団体が目指す事業の形や今後の課題などを発表して、研修会は終了となりました。

今後、実施予定団体は、来年度の企画実施に向けて地域課題や地域資源のリサーチを続けながら、派遣アーティストとの打ち合わせを行います。各地域で行われる来年度の企画実施にご期待ください。



上：岩崎正裕さんによるワークショップ
中：事例紹介と質疑応答
下：打ち合わせ内容の経過報告

●令和5年度「リージョナルシアター事業」

◎派遣アーティスト

- 多田淳之介
(演出家、東京デスロック主宰)
- 田上豊
(劇作家・演出家、田上パル主宰)
- 有門正太郎
(演出家・俳優、有門正太郎プレゼンツ主宰)
- 福田修志
(劇作家・演出家、F's Company代表)
- ごまのはえ
(劇作家・演出家・俳優、ニットキャップシアター代表)

◎アドバイザー

- 内藤裕敬
(劇作家・演出家、南河内万歳一座座長)
- 岩崎正裕
(劇作家・演出家、劇団太陽族代表)

◎実施予定団体

- 青森県八戸市
(八戸市南郷文化ホール)
- 茨城県日立市
(多賀市民会館)
- 茨城県茨城町
- 東京都狛江市
(西河原公民館)
- 京都市
(ロームシアター京都)

◎問い合わせ

芸術環境部 栗林・薬科
Tel. 03-5573-4124

財団からのお知らせ

●雑誌『地域創造』第48号を発行しました



文化・芸術を通じた地域づくりの事例を紹介する雑誌『地域創造』第48号を2022年12月16日に発行しました。今回の特集は、新型コロナウイルス感染症等の影響により開館の遅れた公立文化施設が次々と開館している状況下で、これからの公立文化

施設のマネジメントや事業内容を考える上で参考になるニューオープンの施設を紹介するとともに、これからの事業で活躍する若者へ向けた新しい育成制度を紹介します。また、1994年の地域創造設立後、貸館だけでなく自主事業に取り組むホールが増え始め、その中で開館した多くの施設が20周年を迎えています。開館20周年を迎えた施設をピックアップし、現場の職員による座談会も行いました。

◎特集1「ニューオープン」

- あきた芸術劇場ミルハス(秋田県秋田市)
- 旧高槻市民会館/高槻城公園芸術文化劇場(大阪府高槻市)
- 那覇文化芸術劇場なはーと(沖縄県那覇市)
- コラム その他のニューオープン施設

◎特集2「育成環境を考える」

- 浜松市アクティビティ音楽院(浜松市)
- コラム 浜松市楽器博物館
- 公益財団法人クマ財団
- たいけん美じゅつ場VIVA(茨城県取手市)
- ◎空間のエスプリ—国際的事例のビジュアルレポート
- ジャカルタの複合コレクティブGUDSKUL(インドネシア)
- ◎体験レッスン—公立文化施設職員・文化政策担当者へのノウハウ伝授
- 宮古市民文化会館に「人の繋がりを取り戻す」プログラムづくりを学ぶ(岩手県宮古市)
- ◎SCOPE—地域の注目事例レポート
- プロジェクトFUKUSHIMA!/[わらじまつり][わらじ音頭](福島県福島市)
- 静岡市民文化会館「ラウドヒル計画」(静岡市)
- ◎座談会
- それぞれの20年
- ◎イラストSCOPE—伝統芸能・古典芸能・祭りなど伝承の取り組みのイラストレポート
- 邦楽器系の製造を支える原糸づくりと丸三ハシモト(滋賀県長浜市)
- ◎海外STUDY
- クリエイティブ・ヨーロッパ・プログラム
- ◎BOOK
- 『協働と共生のネットワーク インドネシア現代美術の民族誌』

●地域創造発行物のご案内

文化・芸術を通じた地域づくりの事例を紹介する雑誌『地域創造』のバックナンバーや、地域創造レターで長年にわたって連載してきた制作基礎知識シリーズを中心にまとめたハンドブック『公立ホール・劇場職員のための制作基礎知識 増補版 2021年』などは、地域創造のホームページから入手が可能です。

*入手方法はこちらからご確認ください。 <https://www.jafra.or.jp/library/nyushu/application/>



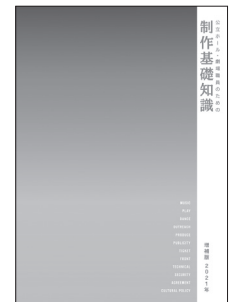
『地域創造』第47号
特集：レジデンス再考/well-being(よりよく生きる)



『地域創造』第46号
特集：コロナ時代/暮らしとアート



『地域創造』第45号
特集：美術館リニューアル/パブリック・プログラムを考える



『公立ホール・劇場職員のための制作基礎知識 増補版 2021年』

●雑誌『地域創造』、地域創造発行物に関する問い合わせ
芸術環境部 矢嶋
Tel. 03-5573-4093

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

地域通信

●地域通信欄掲載情報について
最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

●データの見方
情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック
[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先
ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当 梅村・矢嶋

●2023年3月号情報締切
1月25日(水)

●2023年3月号掲載対象情報
2023年3月～5月に開催もしくは募集されるもの

北海道・東北

●札幌市

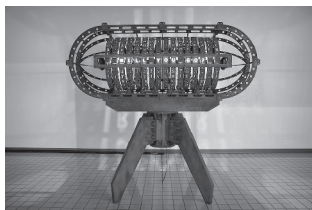
札幌芸術の森美術館
〒005-0864 札幌市南区芸術の森2-75
Tel. 011-591-0090 山田のぞみ
<https://artpark.or.jp/>

札幌美術展

昨日の名残 明日の気配

北海道、札幌にゆかりのある作家を紹介する展覧会シリーズ。パンデミックにより露わとなった自然と人、人と人との結びつきに関わる新たな問題をテーマに作品を展示する。人と人ならぬもののユーモアあふれるやり取りを通じてコミュニケーションのあり方を問いかける熊谷文秀、北海道の山野に自生するイタダリの驚異的な生命力に感化され、これを素材に彫刻を制作する渡辺行夫ら8名の作家を紹介。

[日程] 1月28日～3月12日
[会場] 札幌芸術の森美術館



熊谷文秀 (DIALOG MACHINE 2)
(2021年)

●北海道函館市

函館市文化・スポーツ振興財団
〒040-0001 函館市五稜郭町37-8
Tel. 0138-55-3521 伊藤・若栗
<http://www.zaidan-hakodate.com/gjh/geijiyutu/index.html>

HAKODATE WINTER JAZZ FESTIVAL

幅広い世代の市民にジャズの魅力にふれてもらうため、毎年冬に開催されるジャズイベント。函館市内外で活動中のバンド3組が登場。さらに今回は4年ぶりに東京からゲストとして帯広出身、函館ゆかりのサクソ奏者・川村裕司を迎え、寒い冬の函館をジャズで彩る。

[日程] 1月29日
[会場] 函館市芸術ホール

●岩手県北上市ほか

(一財)北上市文化創造
〒024-0084 北上市さくら通り2-1-1(さくらホール内)
Tel. 0197-61-3300 千葉真弓
<https://www.sakurahall.jp/>

アーティスト・イン・レジデンスによる作品創作事業 テアトロ・インプロヴィーズ『おとのいろ、ことばのかたち、夢のおはなし』

岩手県北上市、釜石市、埼玉県秩父市のホールが連携して行う作品創作事業。イタリアの劇団テアトロ・インプロヴィーズが、それぞれの地域の特色ある場所や文化を巡る滞在リサーチを実施し、そこからインスピレーションを受けて新作を創作。岩手県内を拠点とするフルート奏者・牧野詩織をパフォーマーに迎え、コミカルかつ詩的な世界へ観客を誘う。また、各地で子どもたちとのワークショップも実施する。

[日程・会場] 1月7日:北上市文化交流センターさくらホール/1月9日:釜石市民ホールTETTO/1月15日:秩父宮記念市民会館

●仙台市

仙台市民文化事業団
〒981-0904 仙台市青葉区旭ヶ丘3-27-5
Tel. 022-276-2110 内山直子
<https://www.sendaiycc.jp/>

日立システムズホール仙台 presents 大前光市×熊谷駿「Sendaiscape」

義足のコンテンポラリーダンサーとして国内外で活躍する大前光市と、仙台が誇るサクソプレイヤー・熊谷駿による“ダンス×ジャズ”のコラボレーションによる

公演。気鋭のふたりが仙台をテーマに新たに描き出す風景を、オリジナル作品に乗せて届ける。昨年秋には関連企画として、大前によるダンスワークショップも開催された。

[日程] 1月27日、28日
[会場] 日立システムズホール仙台

●秋田県秋田市

あきた芸術劇場ミルハス
〒010-0875 秋田市千秋明徳町2-52
Tel. 018-838-5822 富橋信孝
<https://akiat.jp>

県民・市民参加型ミュージカル『櫻の記憶・蓮のトキメキ』

県民・市民によるオリジナルミュージカル。一般公募で集まった45人の初心者から経験者までさまざまなキャリアの出演者が、プロの演出家、振付家、音楽監督と力を合わせて約1年間の練習やワークショップを経て舞台に立つ。栗城宏(劇団わらび座)の脚本、畑澤聖悟(渡辺源四郎商店)の演出による作品は、ミルハスの敷地に江戸時代からあった櫻と千秋公園の蓮をモチーフに、三世代にわたり県民会館に親しんできた家族の物語。

[日程] 1月14日、15日
[会場] あきた芸術劇場ミルハス

●福島県福島市

キョウワグループ・テルサホール(福島テルサ)
〒960-8101 福島市上町4-25
Tel. 024-521-1500 金井研二
<http://www.f-shinkoukousha.or.jp/terrsa/>

テルサ演劇祭

地元の高校生と劇団120〇ENによる演劇祭。1週目は福島県県北地区高等学校演劇連盟選抜の3校(福島成蹊高校、福島東綾高校、福島南高校)が各1時間の演劇を披露。2週目は「福島に住む人々のルーツをたどる演劇集団」として、福島を中心

に活動をする120〇ENが福島
の民話劇「おろ杉物語」を上演
し、市各地の地名にも残る王老
杉(おろす)伝承を描く。

[日程] 1月15日、21日、22日
[会場] キョウワグループ・テルサ
ホール(福島テルサ) FTホール



福島東稜高校演劇部『そばにいるよ』
(2022年10月/令和4年度福島県東北地区
高等学校演劇連盟コンクール)

関東

●埼玉県所沢市

所沢市文化芸術振興課
〒359-8501 所沢市並木1-1-1
Tel. 04-2998-9211 淵江祐太

現代美術展

「ところざわ アートのミライ」

所沢にゆかりのある若手作家8
組11名による展覧会。より多く
の市民が気軽にアートにふれる
機会の提供と、市民の文化芸術
への関心の向上のため、集客性
の高い所沢駅をはじめとする3
会場で同時開催。各施設と協力
して、スタンパラリーやワークシ
ョップを行うなど、子どもや普段
あまりアートに関心が無い人でも
楽しめる工夫を取り入れている。
[日程] 1月14日～29日
[会場] 所沢駅、グランエミオ所
沢、所沢駅東口市民ギャラリー

●埼玉県東松山市

東松山文化まちづくり公社
〒355-0024 東松山市六軒町
5-2
Tel. 0493-24-2011 鈴木・中山

<https://theater.pac.or.jp/>

クロスプレイ東松山
白神ももこ「どこ吹く風のあな
た、ここに吹く風のまにまに」

市内の高齢者福祉施設にアテ

ィストが滞在・宿泊し、ワークシ
ョップや作品制作を通して、利
用者や職員と文化的な交流を図
るプロジェクト「クロスプレイ東
松山」。2022年度のアソシエイト
アーティストでダンサーの白神も
もこによる創作公演を、高齢者
福祉施設と市民文化センターの
2会場で上演する。

[日程・会場] 1月15日：デイサー
ビス楽らく/22日：東松山市民
文化センター

●千葉市

千葉県文化振興財団
〒260-0852 千葉市中央区青
葉町977-1

Tel. 043-266-3511 高森智子

<https://www.cbs.or.jp/aoba/>

見る、知る、伝える千葉～創作 狂言～ちばわらい

18年目を迎える創作狂言プロジ
ェクト。和泉流狂言師・小笠原
由祠、千葉大学、千葉県文化振
興財団、県民などで新たにつく
り上げた狂言を毎年上演してい
る。今回は、江戸時代末期頃ま
で千葉寺で行われていた年越
しの風習「千葉笑い」を題材に
した創作狂言「ちばわらい」を
上演。プロの狂言師と千葉大学
の学生、狂言体験講座に参加した
県民が出演し、千葉に伝わる文
化を再発見し伝えていく。

[日程] 1月8日
[会場] 青葉の森公園芸術文化
ホール

●東京都練馬区

練馬区立美術館
〒176-0021 練馬区貫井1-36-16
Tel. 03-3577-1821 毛利・永井
[https://www.neribun.or.jp/museum.
html](https://www.neribun.or.jp/museum.html)

平子雄一×練馬区立美術館コレ
クション inheritance, metamor
phosis, rebirth「遺産、変形、再
生」

練馬区在住の気鋭の作家・平子

雄一が、美術館のコレクション
の中から10点の絵画を選んで分
析・解釈し、それを基にさまざま
な要素を取り込んだ新作絵画を
制作、選んだコレクションととも
に公開する。コレクションという
“遺産”を平子が“変形”し、現
代的な感覚のもとに“再生”させ
るという時間と空間を超えた対
話的な試みにより、創造の可能
性を探る。

[日程] 2022年11月18日～2月12日
[会場] 練馬区立美術館

●横浜市

横浜市磯子区民文化センター杉
田劇場

〒235-0033 横浜市磯子区1-
1-1 らびずた新杉田4F

Tel. 045-771-1212 武市梢

<https://www.sugigeki.jp>

野村道子プロデュース 朗読歌 劇『椿姫』～不滅の恋～

声優・野村道子のプロデュースに
よる、池澤春菜、福山潤など人
気声優の朗読とオペラのコラボ
レーション企画第3弾。上演台
本・演出を吉田知明、ソプラノを
富平安希子、テノールを大田翔
が担い、『乾杯の歌』『ああ、そ
は彼の人か』『花から花へ』など
を演奏する。「杉劇新春お年玉
企画」として、小学生から18歳
以下の子どものを毎回52人無料で
招待する。

[日程] 1月14日、15日
[会場] 横浜市磯子区民文化セン
ター杉田劇場

●川崎市

ミュゼ川崎シンフォニーホール
〒212-8557 川崎市幸区大宮
町1310

Tel. 044-520-0100 兼澤・森

<https://www.kawasaki-sym-hall.jp/>

モーツァルト・マチネ～川崎市・
ザルツブルク市友好都市提携
30周年記念

「モーツァルト・マチネ」は2010

年より始まったプログラムで、1
年を通して東京交響楽団とモー
ツァルトにフォーカスした公演を
実施。今回は、川崎市とザルツ
ブルク市の友好都市提携30周
年記念公演として、国内外で活
躍するオペラ歌手の団体「モー
ツァルト・シンガーズ・ジャパン」
との共演で『魔笛』のハイライト
公演を行う。ミュゼの中高生
プロデューサーチーム「リトルミュ
ゼ」が企画した、ザルツブルク
市と川崎市にちなんだクイズラ
リーなど関連企画も開催。

[日程] 1月21日
[会場] ミュゼ川崎シンフォニー
ホール

北陸・中部

●新潟県柏崎市

柏崎市文化会館アルフォーレ
〒945-0054 柏崎市日石町4-32
Tel. 0257-21-0010 垂澤萌
<https://www.artforet.jp/>

未来へつなぐコンサート

新潟県中越沖地震復興15周年
と開館10周年の記念事業とし
て、公募で結成した合唱団が7
カ月の練習を経て、地元出演者
に加えて指揮者・松井慶太と東
京混声合唱団メンバーと共演。
未来へ残したい音楽として、第
1部は東混カルテットによるアカ
ペラコンサートを、第2部は池
辺晋一郎が柏崎市のために作曲
した「カンタータ『美しい星のた
めの』～柏崎市によせて～」を約
140人の出演者が披露する。

[日程] 1月22日
[会場] 柏崎市文化会館アルフォ
ーレ

●石川県金沢市

金沢市アートホール
〒920-0853 金沢市本町2-15-1
Tel. 076-223-9898 木下梢
<https://www.art-h.gr.jp/>

第1回 市民アンサンブルの日
金沢市のクラシックにおける室

▼今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

内楽をより豊かに、市民演奏家が楽しめる場の提供と、より多くの人を経験できることを目的としたコンサート。クラシックをはじめ、三味線や二胡、ライアーなど13組の多彩なアンサンブルが出演。ゲストに高田愛子(ヴァイオリン)、富田祥(チェロ)、松永みなみ(ピアノ)らを迎え、ピアノ三重奏曲を披露する。

[日程] 1月15日

[会場] 金沢市アートホール

●長野県原村

八ヶ岳美術館

〒391-0115 諏訪郡原村17217-1611

Tel. 0266-74-2701 塚崎美歩

<https://yatsubi.com/>

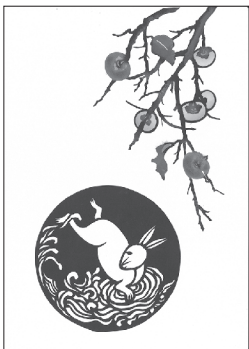
日達れんげ きりえ展

八ヶ岳山麓の森から

原村在住のきりえ作家・日達れんげは、風景や野草など、八ヶ岳山麓の暮らしの中で出会う折々の美しさや喜びを、紙の表情豊かなきりえと温かな筆致のエッセイで表現している。本展では、八ヶ岳や原村の自然・信仰・人々の暮らしにまつわる題材による作品から、新作を中心に紹介する。「きりえプリントのランチョンマットをつくろう」(2月23日)などのワークショップも実施。

[日程] 2022年12月10日~3月21日

[会場] 八ヶ岳美術館



日達れんげ《こて絵 うさぎと柿》(2022年)

●岐阜県岐阜市

岐阜県美術館

〒500-8368 岐阜市宇佐4-1-22

Tel. 058-271-1313 後藤規絵

<https://kenbi.pref.gifu.lg.jp>

アーティスト・イン・ミュージアム AiM Vol.13 力石咲

美術館の中にアーティストのアトリエをつくり出し、アーティストの制作活動を身近に鑑賞する機会の創出を目指す。招聘作家の力石咲は、編む、解くという行為によって一本の糸が変容していく編み物の特性を、人生や自然現象、物事の成り立ちなどと重ね合わせながら制作している美術家。会期最終日には作家が1か月半にわたってアトリエに構築した作品を“解く”パフォーマンスも行われる。

[日程] 公開制作: 1月21日~2月26日、作品展示: 3月4日~12日

[会場] 岐阜県美術館

●静岡県

SPAC-静岡県舞台芸術センター

〒422-8019 静岡市駿河区東静岡2-3-1

Tel. 054-203-5730 久我晴子

<https://spac.or.jp/>

SPAC『リチャード二世』

上演機会が少ないシェイクスピアの歴史劇を、遠い昔の遠い国の出来事ではなく、今につながる物語としてお届け。この公演に関連して、受講生が短編戯曲を執筆する「連続戯曲講座」を県内3カ所で開催。公演当日は哲学者・國分功一郎氏を招いたアフタートーク、シェイクスピアについての無料講座やバックステージレクチャーなどの関連企画も日替わりで実施。

[日程] 1月14日、15日、21日、22日、28日、29日

[会場] 静岡芸術劇場

●愛知県東海市

東海市芸術劇場

〒477-0031 東海市大田町下

浜田137(ユウナル東海内)

Tel. 0562-38-7030 太田・黒田

<https://www.tokai-arts.jp/>

超・オペラべらべらコンサート『ラ・ボエーム』(スペシャル・ハイライト)

オペラ『ラ・ボエーム』のハイライトを、オペラ歌手の天羽明恵、村上敏明、種谷典子、須藤慎吾、又吉秀樹が古藤田みゆきのピアノ伴奏に乗せてお届けする。ナビゲーター役も務める又吉が役柄を変えながら物語を進行し、東海児童合唱団、東海市民合唱団も出演する。1月27日には、公演をより楽しむため、天羽が歌とお話で公演の魅力を語るプレトークも開催。

[日程] 2月26日

[会場] 東海市芸術劇場

近畿

●三重県四日市市

四日市市文化まちづくり財団

〒510-0075 四日市市安島2-5-3

Tel. 059-354-4501 田中峻

<https://yonbun.com/>

三浜文化会館演劇制作事業

『でたらめな神話』

閉校した小学校を有効活用し、市民の芸術文化活動の場となっている四日市市三浜文化会館が初めて取り組むアーティスト・イン・レジデンス事業。MONOの土田英生が脚本を手がけた宮崎県立芸術劇場プロデュース公演『板子乗降臨』を、土田が三重を舞台にした作品にリメイク。約1か月の滞在制作を行い、台詞には四日市弁が使われるなど、四日市ならではの作品に仕上がっている。

[日程] 1月10日、11日

[会場] 四日市市文化会館

●大阪府豊中市

豊中市立文化芸術センター

〒561-0802 豊中市曾根東町

3-7-2

Tel. 06-6864-3901 井上周

<https://www.toyonaka-hall.jp/>

TRANCE 2023 [ATMOSPHERE / CHAOS]

生でしか体験し得ないライブ感やグルーブ感のある音と空間を特色とした企画シリーズとして2019年に開始。今年から名称を一部変更し、音楽以外の分野も取り入れた内容としてバージョンアップ。「ATMOSPHERE」では音楽パフォーマンスグループのつむぎね、影絵師・音楽家の川村巨平斎、パーカッショニストHAMAが共演。「CHAOS」は、中川賢一のピアノとエレクトロニクスの演奏・技術者である有馬純寿が共演する。

[日程] ATMOSPHERE: 1月21日、22日 / CHAOS: 2月10日

[会場] 豊中市立文化芸術センター

●大阪府貝塚市

貝塚市文化振興事業団

〒597-0072 貝塚市畠中1-18-1

Tel. 072-423-2442 高井亜由子

<https://cosmostheater.or.jp/>

コスモス吹奏楽カーニバル2023

2017年から開催している泉州地域の吹奏楽部に発表の場を提供するほか、プロの吹奏楽団の演奏も楽しめるコンサート。3年ぶりの開催となる今回は、1部は中学・高校吹奏楽部による演奏会が行われ、2部に出演するゲストのBLACK BOTTOM BRASS BANDは、市内の中高校生吹奏楽部とのジョイントも予定している。

[日程] 1月28日

[会場] 貝塚市民文化会館コスモシアター



前回の様子(大阪府立和泉高校)

●兵庫県伊丹市

伊丹市民オペラ公演実行委員会
〒664-0895 伊丹市宮ノ前1-3-30 (伊丹アイフォニックホール内)

Tel. 072-780-2110 澤野・孫
<https://aiphonic.jp/>

第37回伊丹市民オペラ定期公演 G.プッチーニ作曲『蝶々夫人』

伊丹市内の音楽家を中心となり、市民と芸術家との協働によるオペラ公演として1985年から実施してきた事業。37回目となる今回はプッチーニの人気作『蝶々夫人』を取り上げる。蝶々夫人役には、第30回伊丹市民オペラでデビューを果たした中原加奈を起用するなど、全役オーディションで選抜。また、合唱団や伊丹シティフィルハーモニー管弦楽団、舞台ボランティアなど市民も多数公演に関わり、作品を盛り上げる。

[日程] 1月29日

[会場] 東り いたみホール

●兵庫県丹波篠山市

兵庫陶芸美術館
〒669-2135 丹波篠山市今田町上立杭4

Tel. 079-597-3961 村上ふみ
<https://www.mcart.jp/>

教えて!兵庫陶芸美術館 —収集と展示のQ&A—

やきものを専門に扱う美術館として、陶芸文化の魅力を発信する兵庫陶芸美術館の特色あるコレクションと併せて、「収集」と「展示」という美術館の活動や、収集した資料の保存や活用、やきものならではの展示の工夫についても紹介。実際に展示に使用している道具や作業映像、これまでに作成したチラシや図録も交えて紹介することで、美術館の魅力を感じられる展覧会となっている。

[日程] 2022年12月10日～2月26日

[会場] 兵庫陶芸美術館

●奈良県奈良市

入江泰吉記念奈良市写真美術館
〒630-8301 奈良市高畑町600-1
Tel. 0742-22-9811 説田晃大
<http://naracmp.jp>

藤岡亜弥 New Stories ニュー・ストーリーズ

写真界の芥川賞ともいわれる木村伊兵衛賞を受賞し、高い評価を受けている写真家・藤岡亜弥の個展。代表作である地元の広島を撮影した「川はゆく」シリーズに新作を加えて再編集した「傷ついた風景の向こうに」のほか、学生時代から撮り続けている「かわいいだけじゃダメかしら」、「ニエプス巡礼」、「ホームアローン」の4つのテーマで構成。

[日程] 2022年11月12日～2月5日

[会場] 入江泰吉記念奈良市写真美術館

中国・四国

●鳥取県鳥取市

鳥取県文化振興財団
〒680-0017 鳥取市尚徳町101-5
Tel. 0857-21-8700 羽場由紀子
<http://site.torikenmin.jp/kenbun/>

梨花ホール レクチャーコンサート シリーズvol.4 みんなのピアノ 聴き弾きくらべコンサート

とりぎん文化会館が所有している3種のグランドピアノ(スタインウェイ、ベーゼンドルファー、ヤマハ)それぞれの特徴や歴史、作曲家との関わりなど解説を交え、特有の音色と響きを楽しむレクチャーコンサートシリーズ。年に1回開催しており、今回が第4弾。ナビゲーター・ピアニストには昨年に引き続き金子三勇士を迎える。

[日程] 1月28日

[会場] とりぎん文化会館 梨花ホール

●山口県山口市

山口市文化振興財団

〒753-0075 山口市中園町7-7

Tel. 083-901-2222 肥塚・土居
<https://www.ycfcp.or.jp/>

DYNAMIC 賢者の音I ～辻本玲と仲間たち～

国際的に第一線で活躍中の若手演奏家にフォーカスしたクラシックコンサートシリーズ。第1回の今回は、NHK交響楽団首席チェロ奏者・辻本玲のソロと、彼が信頼する仲間たち(ヴィオラ・鈴木康浩、ピアノ・津田裕也)による室内楽の2部構成。地元の学生オーケストラへのワークショップやアウトリーチ活動も行われる。

[日程] 1月22日

[会場] 山口市民会館

九州・沖縄

●福岡市

福岡市美術館
〒810-0051 福岡市中央区大濠公園1-6

Tel. 092-714-6051 山本裕子

<https://www.fukuoka-art-museum.jp/>

第1回ホワイトウォールプロジェクト 田中千智展 地平線と道

3年に1度、気鋭のアーティスト1組が、美術館の13mの白い壁を用いた新作を制作し、隣接する展示室で個展を行う新シリーズ。初回は、漆黒の背景に浮かび上がる艶やかな油彩で人物や風景を描く、福岡市在住の画家・田中千智が壁画制作を行い、作品約40点を展示する。壁画は、2023年1月末に第1段階が完成。その後毎年1月に制作し、画面が段階的に変化を遂げていく。

[日程] 1月5日～3月21日

[会場] 福岡市美術館

●佐賀県佐賀市

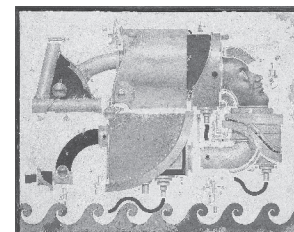
佐賀県立美術館
〒840-0041 佐賀市城内1-15-23
Tel. 0952-24-3947 野中耕介
<https://saga-museum.jp/museum/>

ノートからアートに—野村昭嘉・ 26歳の脳内地図—

佐賀に生まれ、将来を囑望されながら26歳の若さで亡くなった画家・野村昭嘉。遺跡の壁画を思わせる乾いた絵肌、そこに浮かぶ生物と機械的な不思議な物体に代表される彼の作品は、没後30年を経て今なお新鮮な魅力を放っている。本展では26年の生涯で生み出された数々の作品とともに、野村が残した直筆の制作ノートを読み解きながら創作の秘密に迫り、作品の新たな魅力を探る。

[日程] 2022年12月15日～2月5日

[会場] 佐賀県立美術館



野村昭嘉(Amosu Norle) (1990年/アクリル絵具、板/佐賀県立美術館蔵)

●宮崎県宮崎市

みやざきアートセンター
〒880-0001 宮崎市橘通西3-3-27

Tel. 0985-22-3115 原田侑実
<https://miyazaki-ac.com/>

目で味わうアート展

アートを通して“おいしい”を見つめる展覧会。食品サンプルメーカー・株式会社岩崎の社内コンクール作品を中心に、遊び心とユーモア、そしてリアリティに溢れるおいしく楽しい作品約130点を展示。また食をテーマに制作された絵画やイラストレーション、木彫、写真なども展示されるほか、樹脂粘土や木を使って野菜やお菓子などのリアルな作品をつくるワークショップも併せて開催する。

[日程] 2022年12月17日～1月22日

[会場] みやざきアートセンター

▼今月の情報(アーツセンター編)

新たにオープンした公立のアーツセンターを紹介します

アーツセンター情報

●データの見方

情報は所在地の北から順に掲載しています。●で表示してあるのはアーツセンターの所在地です。以下名称、住所、電話番号、公式サイトURLを記載しています。また、基礎データとして、設置者、運営者、ホール席数など施設概要を紹介しています。

●情報提供のお願い

地域創造では、地域の芸術環境づくりを積極的に推進するアーツセンター(ホール、美術館などの施設のほか、ソフトの運営主体も含みます)の情報を収集しています。特に、新規の計画やオープンなどのトピックスについては、この情報欄に掲載していく予定です。このページに掲載を希望する情報がございましたら、情報担当までご連絡ください。

●情報提供先

地域創造レター担当
Fax. 03-5573-4060
Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp

●青森県八戸市

八戸市美術館

〒031-0031 八戸市大字番町10-4

Tel. 0178-45-8338

<https://hachinohe-art-museum.jp/>

◎2021年11月3日リニューアルオープン



©Daichi Ano

旧税務署庁舎を改装し1986年に開館。建物の老朽化や収蔵・展示環境が不十分であったことから、全面的に建て替えられリニューアルした。建設にあたっては、市の「アートのまちづくり」推進の拠点に相応しい規模を確保しつつ、アートを通じた出会いが人を育み、人の成長がまちを創る「出会いと学びのアートファーム」をコンセプトとして整備。館内で最も広いジャイアントルームは、可動間仕切りや家具で自在に場所をつくることで、あらゆる活動が可能。ホワイトキューブなどの「個室群」は、展示や制作といったさまざまな機能に特化している。この2種類の空間の自由な組み合わせによって、豊かな活動の機会を提供する。誰もが気軽にアートにふれられる「展覧会」と、アートを介して出会いや学びを誘発する「プロジェクト」を軸に、教育機関や企業とも連携しながら地域の新しい価値を生み出していく。
[オープニング事業]開館記念「ギフト、ギフト、展」
[施設概要]ジャイアントルーム(834.16m²)、ホワイトキューブ(516.55m²)、ブラックキューブほか
[設置・管理・運営者]八戸市
[設計者]西澤徹夫・浅子佳英・森純平

●和歌山県和歌山市

和歌山城ホール

〒640-8156 和歌山市七番丁25-1

Tel. 073-432-1212

<https://wakayama-johall.com/>

◎2021年10月29日オープン



旧市民会館の老朽化や耐震性の問題に伴い、和歌山城前の中学校跡地を活用し、芸術文化・人に出会う喜びや感動がまちの元気につながる「にぎわいの文化交流拠点」として整備。音楽から講演まで多目的に利用できる大ホールは、和歌山城がデザインされた座席や和歌山の名所や名産がちりばめられた緞帳など、“和歌山”を随所に感じられる。小ホールは音響性能が高く、多用途に対応可。開放的な1階エントランスは、紀州材等の木材がふんだんに使われ、和歌山城を一望できる屋上にはステージ等があり、イベントスペースとしても活用できる。今後は文化のみならず、市内外、海外を広く繋ぐ交流拠点として、周辺のホテルや大学等と連携を図りながら各種コンベンションの誘致も進めていく。
[オープニング事業]「さだまさし&澤和樹 和歌山城ホール奇襲(紀州)大作戦」ほか
[施設概要]大ホール(954席)、小ホール(395席)、展示室、リハーサル室、工房、練習室、会議室ほか
[設置者]和歌山市
[管理・運営者](公財)和歌山市文化スポーツ振興財団
[設計者]教育施設・キューブ特定設計業務共同体

●沖縄県那覇市

那覇文化芸術劇場 なはーと

〒900-0015 那覇市久茂地3-26-27

Tel. 098-861-7810

<https://www.nahart.jp/>

◎2021年10月31日オープン



旧那覇市民会館の老朽化に伴う後継施設として、那覇市市制100周年にあたる2021年に開館。国際通りの程近くに位置し、施設の外観は首里の伝統的織物をイメージしたルーバーで包み込まれ、植栽には沖縄で昔から染色に使われてきた染木が植えられるなど、随所に沖縄・那覇らしさが盛り込まれている。内部には、通り抜けもできる広場のような「ウナー(御庭)」と呼ばれる共有ロビーや、さまざまな分野の舞台芸術作品の上演に対応可能な大劇場、可動客席で音響反射板も備える小劇場をはじめ、練習室やスタジオを有する。鑑賞公演だけでなく、アーティストや市民との新たな作品の創造活動や、観光や福祉等の他分野との連携、地域の文化活動の場となることを目指し、多様な分野のワークショップやコンサート、展覧会なども開催していく。
[オープニング事業]「三番叟・唐人相撲～なはーと編～」ほか
[施設概要]大劇場(1,594席)、小劇場(最大259席)、大スタジオ・小スタジオ、練習室4室、展示室ほか
[設置・管理・運営者]那覇市
[設計者]香山・久米・根路銘設計共同体

▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

名古屋市

やっとかめ文化祭 2022



上：「弦楽の調べ 和洋でめぐる御当地縁起」/中：全39コースある「まち歩きなごや」のひとつ、ロケ地巡りでは、コンベンションビューローの職員が手づくりのフリップボードを片手にドラマや映画の舞台となった近代建築を案内/下：芸どころまちなか披露のひとつ「ストリート歌舞伎」にはコスプレイヤーも参戦 ©YATTOKAME

● やっとかめ文化祭2022

【主催】やっとかめ文化祭実行委員会(名古屋市(文化芸術推進課、観光推進課、歴史まちづくり推進室、文化財保護室)、(公財)名古屋市文化振興事業団、(公財)名古屋観光コンベンションビューロー、(公財)名古屋まちづくり公社、中日新聞社、名古屋観光ブランド協会、特定非営利活動法人大ナゴヤ・ユニバーシティー・ネットワーク)

【会期】2022年10月22日～11月13日

【会場】名古屋市内各所(名古屋城、名古屋能楽堂、青少年文化センター アートピアホール ほか)

*「さるく」とは長崎弁でうろつき回ること。2006年に日本初の街歩き地方博覧会として約7カ年かけて行われ、大成功した。自由参加コース、ガイド付きコース、参加体験型コースなど200コース以上で、運営を支えた市民延べ3万人、期間中の観光客数前年同期比6.7%増。

日本舞踊や箏、長唄、能楽、茶道、華道などが習いごととして生きている土地柄は“芸どころ名古屋”と呼ばれ、その魅力を市民に伝えてきた「やっとかめ文化祭」(以下、やっとかめ)が10周年を迎えた。その模様と、支えてきた人々の思いを取材した。

2013年にやっとかめを立ち上げるために招かれたのが、「長崎さるく」(*)の仕掛け人、茶谷幸治さんだ。2年目からは日本舞踊西川流家元である西川千雅さん、コピーライターの近藤マリコさん、デザイナーの高橋佳介さんという名古屋を中心に活動している3名がディレクターとなり、毎年、約3週間にわたり多種多様な企画を展開してきた。内容は、商店街や屋外等での「芸どころまちなか披露」、劇場や能楽堂での「芸どころ名古屋舞台」、寺社などで講座を行う「まちなか寺子屋」、ツアー形式の「まち歩きなごや」の4つが基本になっている。会期末の11月12日、13日、幾つかを見学した。

青少年文化センター「アートピアホール」で開催された『弦楽の調べ 和洋でめぐる御当地縁起』では、箏曲正絃社とセントラル愛知交響楽団による邦楽と洋楽のコラボ。長年、地唄舞の稽古をしているアナウンサーの松本ありさんが、舞と語りを合体したオリジナルの「語り舞」で前口上を務め、箏とヴァイオリンが呼応しあうグレゴリオ聖歌など、何とも不思議な体験だった。

フィナーレは、名古屋のお座敷芸に一般参加者がチャレンジする「金のしゃちほこ踊り」で、着物姿の女性たちが一斉に逆立ちする姿に拍手喝采が起きた。いずれもあらゆる境界・敷居をとっばらい、混ぜ合わせて楽しもうという名古屋人の遊び心が詰まった内容だった。

芸どころまちなか披露のディレクターである西川さんは、海外で現代アートを学んでいた経験から、「日本文化を日本人だけで純粋に守ろうとしても無理な時代。ただソフトウェアとしての日本文化を次代に繋げることができるし、楽しく、面白くすることで残る可能性が高まる」と言い、常磐津×日本舞踊×コスプレイヤー×尾張万歳がクロスした歌舞伎風のショーを披露していた。

やっとかめは、市役所の複数の部署が実行

委員会に参画している。文化芸術推進課企画事業係長の小嶋昭弘さんは、「市役所内の連携で難しいのは、それぞれの部署にどんなメリットがあるかを説明すること。やっとかめは“受け皿”が大きいので、文化が観光やまちづくりにも活かせることを提示でき、win-winの関係が作りやすい」と言う。

現場の一翼を担う名古屋市文化振興事業団は、文化施設の指定管理や文化芸術のイベントを企画・制作する市の文化事業のパートナー。事業推進課長の高木康晴さんは、「財団では、まちなかでの辻狂言、和洋共演の演奏会などを実施しています。親しみやすさと本物の芸の両輪があるのがやっとかめで、こうした企画ができるのも日頃培われた文化芸術関係者との信頼があってこそです」と言う。

やっとかめのもうひとつの特徴が、「やっとかめ大使」と名づけられた市民ボランティアが運営に参加している点だ。「初年度から、まちの文化を“自分ごと”として受け止める人を増やしたいという思いがありました。多い時は約100人が参加し、運営や情報発信を積極的に行っていました」と小嶋さん。その仕組みづくりには2013年から携わっているのが、NPO法人大ナゴヤ・ユニバーシティー・ネットワークだ。

理事長の大野嵩明さんは、「NPOでは、2009年から町の人が先生と生徒になり、名古屋の町をキャンパスにする「大ナゴヤ大学」という学びの場を運営しています。そこで知り合った人が知識や経験を生かしてガイドするまち歩きツアーを会期中毎日やりました。掘れば掘るほど名古屋の奥深さ、面白さが湧いてきます」と言う。

茶道の盛んな土地柄だけあって、老舗の和菓子店も多く、それらを巡るスタンプラリーなどを企画した近藤さんは、「やっとかめ大使たちは、仕事や年齢に関係なく毎年この場で再会を喜び合う仲間。文化の土壌を耕すことから始め、10年を経てまちと人が一緒に年を重ね、緑豊かな木々が育ってきたと感じます」と振り返る。

まち行く人と同じ目線になって伝統文化を柔軟に遊ぶ名古屋の懐に感服した取材だった。

(アートジャーナリスト・山下里加)